

15	豊川	豊川市立東部中学校	なかむらのぶひろ 中村 信裕
分科会番号	1	分科会名	国語教育（文学その他）

## 研究題目

言葉の力を磨き、深く学び合う～主体的で対話的な学びを目指す授業づくり  
～『大人になれなかった弟たちに……』の実践を通して～

## 研究要項

### 1 何のために（目標論）

本学級は、「国語科は嫌いではないが、得意ではない」という考えをもつ生徒の割合が多い。1学期に行った各単元では、与えられた課題には取り組むが、深く作品を読もうとする生徒は限られた。例えば「比喩で広がる言葉の世界」では、比喩の効果を本文から読み取る活動には意欲的に取り組む姿があったが、その効果を実感し、比喩が用いられている身の回りの文章にまで考えを広げる姿は少なかった。1学期の文学的文章の学習では、鍵となる文(文章)に線を引く活動を取り入れた。「シンシユン」では、各場面の人物の関係が読み取れる文を探しほとんどの生徒が線を引くことができた。しかし、「物語全体を通してシユンタとシユンタの関係はどう変わったか」という発問については、「仲の良さ」という表面上の関係で説明しようとする生徒が多く見られた。これは、自分の考えに明確な根拠がないことと、本文の言葉を表面上にしか捉えていないことが原因だと考える。そこで、本文の言葉に込められた思いや意味、そこから伝わるイメージを想像したり、読み取ったりする力を伸ばし、より文中の言葉を根拠に自分の考えを表現できる生徒を育てたいと考える。

### 2 何で（教材論）

本題材は、作者の戦争体験が如実に描かれた作品である。もともとは絵本であり、文体は敬体で話し口調で書かれている。また、各文も短く事実が端的に書かれており、読み取りが苦手な生徒でも物語の展開を把握しやすい作品となっている。しかし、その淡々とした記述が各場面の悲惨な状況を強調したり、人物の心情を想像させたりする。したがって、言葉に着目することに大きな意義がある。「栄養失調です……」や「初めて泣きました」など、一見表面的な言葉にも着目することで、状況や人物の心情を深く読み取ることができるだろう。

### 3 何を・どのように（指導内容・指導方法）

本単元では、①ミルクの盗み飲み、②母の顔、③初めて泣く母の3つの場面を中心に状況や人物の心情を読み取る活動を行う。毎時間着目した言葉や描写を生徒に考えさせることで、一人ひとりが文中の言葉にこだわりながら作品を読めるようにする。また、言葉のもつ意味、イメージ、背景などを考えたり調べたりすることで、苦手な生徒でも自分の考えを書けるようにする。こうした活動を繰り返すことで、「泣いたと書いてあるからすごく悲しかったと思う」というような表面的な捉えになりがちな部分に変容していくと考える。仲間の着目した言葉にも目を向け、意味や時代背景を共有することで、さらに自分の考えを深め、作品を読み味わう姿に期待したい。

4 単元構想

学習の流れ	支援・手だて
<p>初読の感想を書こう ①</p> <p style="text-align: center;">＜初読の感想を書こう＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・改めて戦争は怖いと思った。</li> <li>・弟がかわいそうだが、自分が「僕」でもミルクを飲んでしまうと思う。</li> <li>・作者が実際に体験した話なので、より鮮明な感じがしました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめに自身が泣いた場面や登場人物の状況を想起する。その中で、印象に残ったこと（場面）、疑問に思ったこと、という視点を設けて感想を書かせる</li> </ul>
<p>時代背景に触れ、当時の生活の様子を知ろう ②</p> <p style="text-align: center;">＜作者が体験した出来事の実際は、どんなものだろう＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配給や疎開の大変さ、空襲の恐ろしさが写真を通して伝わってきました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関連する絵本や写真集、動画などを見る中で、当時の時代背景についての理解を深める。</li> </ul>
<p>ミルクを盗み飲みした僕に対する母の心情を読み取ろう ③</p> <p style="text-align: center;">＜ミルクの盗み飲みを母は気づいていたのだろうか＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「よく」とあるから、わかってて言っているんじゃないかな</li> <li>・「ミルクが一缶」とあるから、1缶だけなら気が付くと思うよ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間、着目した言葉を明確にさせ、それを根拠に意見を発信するように伝えていく。</li> </ul>
<p>親戚の家での様子や「顔」の描写から母の思いを読み取ろう ④</p> <p style="text-align: center;">＜母の顔にはどんな思いが表れているだろう＞</p> <p>【母】強い顔→「弟をおんぶして」「はるばる」から家族の命を背負う決意          悲しい悲しい顔→親戚にも断れられるやるせなさ、断念          美しい顔→家族を必死に守る姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの生徒が着目した言葉は、黒板に書くことで共有できるようにする。</li> </ul>
<p>初めて泣いたときの母の思いを考えよう ⑤【本時】</p> <p style="text-align: center;">＜なぜ、初めて「母」は泣いたのだろう。＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「初めて」っていうのは、ヒロユキを棺に入れたときだよ。</li> <li>・「大きくなっていったんだね」とあるから、ヒロユキの成長が感じられて、余計に悲しくなったのかな。</li> </ul> <p style="text-align: center;">＜ヒロユキは幸せだったといった母の言葉は本心だろうか。＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本心だと思う。爆撃で死んでしまえば、「みんなバラバラになる」から。</li> <li>・「泣いた」とあるから死んでしまった以上幸せとは言えないと思う。</li> </ul>	<p>母の心情を考える際には、生徒の意見に対して問い返しをすることで、より深く心情を考えるように伝えていく。</p>
<p>この作品のもつ主題を考えよう ⑥</p> <p style="text-align: center;">＜この作品は私たちにどんなことを伝えているだろう。＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦争で多くの命が奪われたことを忘れないでほしいということ</li> <li>・ひもじかったこととあるから、現代の平和に感謝をしてほしいということ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ヒロシマ」「ナガサキ」「ヒロユキ」などのカタカナ表記に着目させることで、作者の作品に込めた思いに迫ることができるようにする。</li> </ul>
<p>学習後の感想を書こう ⑦</p> <p style="text-align: center;">＜作品を読み深めることで感じたことを書こう＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒロユキの死が当たり前のように淡々と描かれていることから、戦争の恐ろしさや悲惨さが表れていると改めて思いました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の主題を考える際には、題名にも着目させることで、「たちに」や「…」に込められた思いを考えられるようにする。</li> </ul>

## 5 研究の構想

### (1) 目指す生徒像

**描写や言葉を根拠に人物の状況や心情を読み取ることができる生徒**

目指す生徒像に近づいたかどうかは、次の2点で判断をした。

- ・人物の状況や心情を表す表現に注目できているか。
- ・描写から状況や心情を深く読み取り、具体的に自分の言葉で書くことが（伝えることが）できるか。

### (2) 研究の仮説と手だて

#### 【仮説Ⅰ】

言葉に着目することで、より明確な根拠をもって自分の考えを書いたり伝えたりすることができる。

手立て① 本文から着目した言葉を一つ以上取り上げた上で、考えを書く。

#### 【仮説Ⅱ】

母の心情を中心に考えることで、より深く人物の心情を掘り下げることができる。

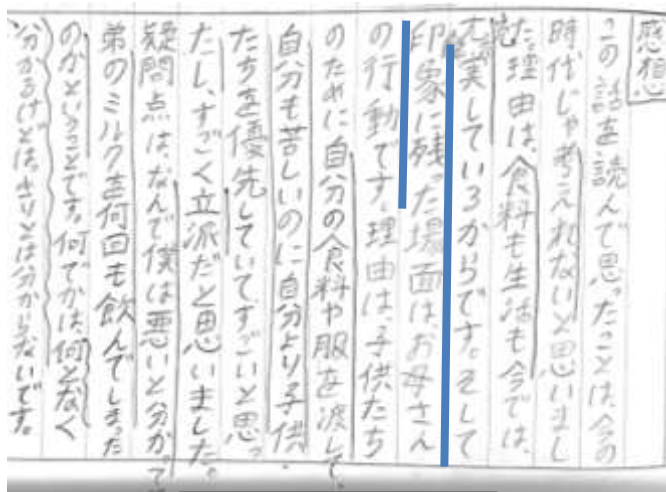
手立て① 母の立場で考えられるような発問の工夫をする。

手立て② 生徒の意見に対して教師が問い返しをしていく。

## 6 研究の実際

### (1) 初読の感想を書き、共有しよう（第1時）、時代背景に触れ、当時の生活の様子を知ろう（第2時）

導入では、作品を通読し、感想をノートに記述した。「アメリカのB29という飛行機が怖い」や「食料も生活も今では充実している」など、戦争の悲惨さについて今の生活と比べながら書く生徒が多かった。また、「なぜ僕は弟のミルクを飲んでしまったのか」や「B29の機体が美しく感じたのはなぜか」など疑問点もいくつか出された。何人かの生徒はこの時点で母の言動にも注目していた（資料1）。中には、「疎開」や「配給」といった言葉に着目し、もっと当時の生活について知りたいという声も上がった。そこで、戦時中の生活について調べ学習を行い、本やインターネットで情報収集をした。調べた言葉は、今後の授業で活用できるように、事前に配付した書き込み式の教科書にメモをさせた。「疎開」や「配給」など、当時の生活を知るキーワードとなる言葉について、教科書の注釈より具体的な内容が書き込まれた。



資料1 初読の感想

(2) ミルクを盗み飲みした僕に対する母の心情を読み取ろう (第3時)

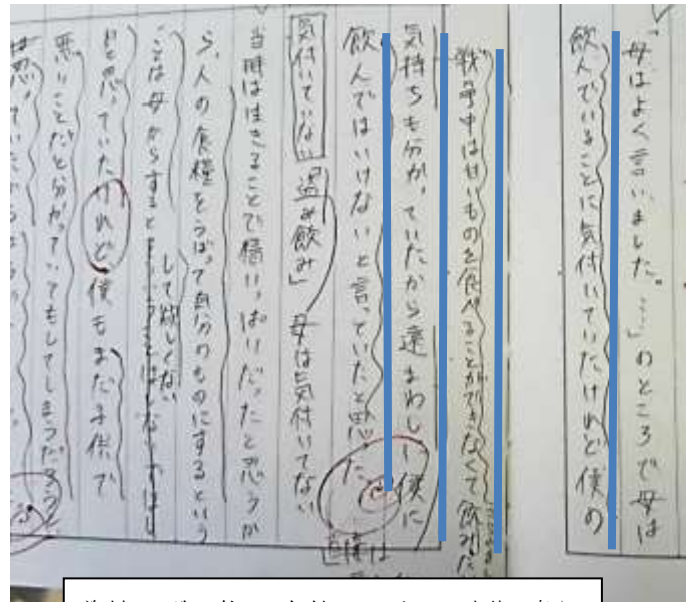
初読の感想で生徒から出された疑問を母の視点で考えさせた。「母は僕のミルクの盗み飲み気付いていただろうか。」と投げかけた。その際に、「着目する言葉を明確にしよう」という指示を出したところ、文中の言葉を根拠に、母が「僕」の盗み飲み気付いていたか否かを説明する様子が見られた。「盗み飲み」という言葉から「気付いていない」と考える生徒もいたが、「ミルクが1缶」という配給の厳しさや「よく言いました」という表現から、母が僕の気持ちを理解したうえで、あえて盗み飲みしたことを注意しなかったのではないかと、という意見に多くの生徒が理解を示した。「気付いたか気付かなかったか」という発問から、当時の食料が足りない生活を想起し、注意したくてもできない母のやるせない思いに共感する意見が出された。言葉に着目させることで、グループや全体での話し合い活動にも変化が生まれた。「よく言いましたと書いてあるから、気づいていたと思う。」「気付いていたけど、戦時中で食料がない状況だから、見て見ぬふりをしていたと思う」など、自分の意見を支える根拠が明確になることで、より建設的な話し合い活動が展開された。

(資料3)

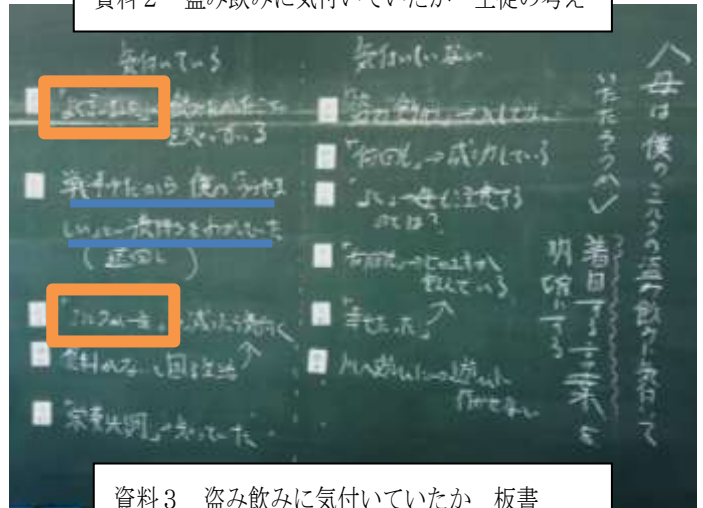
(3) 母の「顔」に込められた思いを読み取ろう (第4時)

母の「顔」に込められた思いを考える際には、「強い」「悲しい悲しい」「美しい」の3つの言葉に着目した。

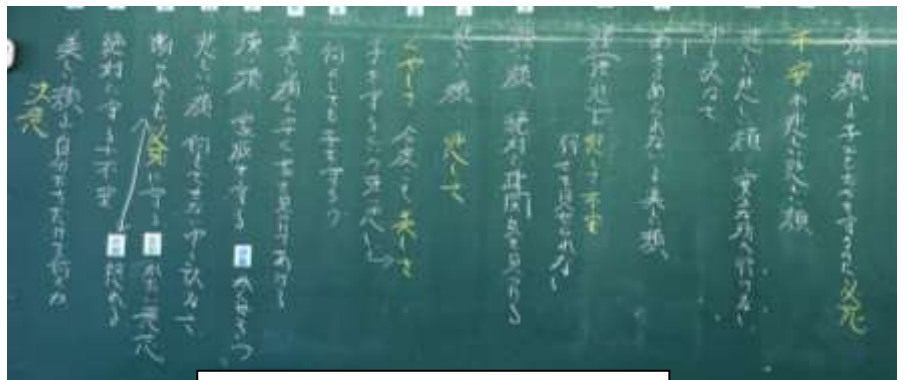
「悲しい思いを持っていたけど、子供たちを守らなきゃと思って、そう決心したときの顔が、僕には美しい顔に見えた」や「子供たちを必死に守ろうとしていると思った」など、多くの生徒が3つの顔の表現から、何としても子供たちを守る母親の決意の表れを読み取った(資料4)。しかし、その顔の裏には、「子供に対してどうすることもできない悲しさ、申し訳なさ」や「親戚の人にさえ追い返される不安」があることにも気付いた。子供の前では弱さを見せられないという母の本音と建前を議論した。描写からより深く心情を探る生徒の姿が見られた。



資料2 盗み飲み気付いていないか 生徒の考え



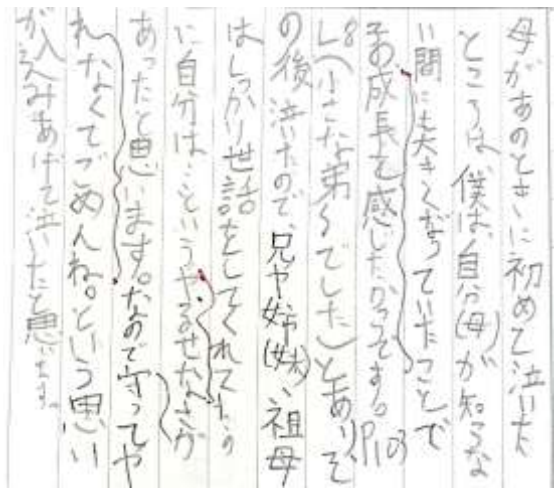
資料3 盗み飲み気付いていないか 板書



資料4 顔に込められた母の思い

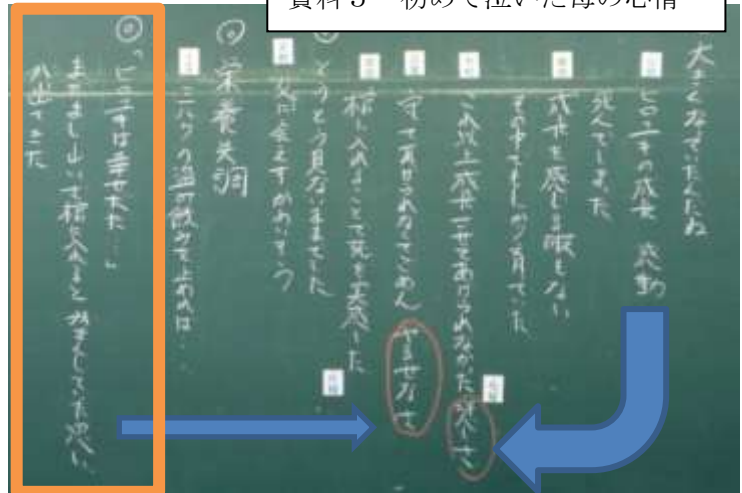
(4) 初めて泣いたときの母の思いを読み取ろう (第5時)、作品の主題を考えよう (第6時)

これまで泣かなかった母が初めて泣いた場面について、母の心情に迫った。初読の感想としても取り上げられた「なぜヒロユキを棺に入れたときに初めて母は泣いたのか」という問いを投げかけた。発問のどこが肝になるかを考えさせたところ、多くの生徒が「初めて」という言葉に着目をした。半数の生徒は、「大きくなっていたんだね」という言葉から、「成長してくれたからうれしくて泣いた」「ひざを曲げて入れたことからヒロユキの成長を感じて感動した」と書いた。一方で「守ってあげられなくてごめん」というやるせなさや(資料5)、「戦時中は生きることに必死で、成長なんか感じる暇もない。



資料5 初めて泣いた母の心情

初めてヒロユキが大きくなっていたことに気付いて、うれし泣きと死んでしまった悲しさが入り混じる思い」という意見も出された。この時点で、母の心情を「喜び」と捉える生徒もいたため、「本当に母は喜びを感じていたと思うか」と生徒に問い返し、母の本当の思いを再度考えさせた。ある生徒が、「ヒロユキは幸せだった…」という母の言葉に着目したことで、「本当にヒロユキは幸せだったのか」という疑問が生まれた。「空襲の爆撃で死ぬば、みんなばらばらで死ぬから、もっとかわいそうだった」という文に着目した生徒が多く、この



資料6 初めて泣いた母の心情 話し合い

母の思いが本心か否かで、意見が分かれた。本心と捉える生徒もいる一方で、多くの生徒が、「まだましとは思っているかもしれないが、いざ棺に入れると悲しみがあふれてきた」と考え、母の言動の裏にあるやるせなさや悲しさを読み取っていた。振り返りには、「自分の子が栄養失調で亡くなったことが受け入れられなくて、棺に入れたとき死を実感した。悲しい気持ちがあふれてきたから、なみだが出た。話し合いをしてから、もっと大人に近づけたかったな、もっと幸せにしたかったなという思いが教科書から伝わってきた」と考えを深めた跡が見られた(資料6)。

第6時では、これまでの学習を振り返り、作品のもつ主題について考えた。僕視点で作品を見返すことで、作品が私たちにどのようなことを訴えているかを考えさせた。「僕はひもじかったこと...忘れませんとあるから、今の私たちにはわからない戦時中の苦しさ(特に食料が無くて栄養失調で亡くなる人がいた)を伝えたい」や「弟たちとあるから、ヒロユキだけではなく、他にも多くの人たちが栄養失調や空襲で亡くなっていて、その人たちの分まで精一杯生きてという思いがある」などの意見が出された。他にも、「母の当時の大変さが伝わってきた」など、母の心情を中心に考えてきたからこそ感じられるメッセージがあることにも気付いた。

(5) 学習後の感想を書こう (第7時)

第7時には、学習のまとめとして、作品を読み深めることで感じたことを原稿用紙にまとめた。初読の感想と比べると、栄養失調で亡くなる人があるという生活の苦しさや子を守る母の様子に着目した感想が多かった。母の心情を中心に考えたことで、「僕」視点では気付くことが難しい母の立場での戦争の大変さを感じ取った生徒が多く見られた。



7 成果と課題

資料7 学習後の生徒の作文

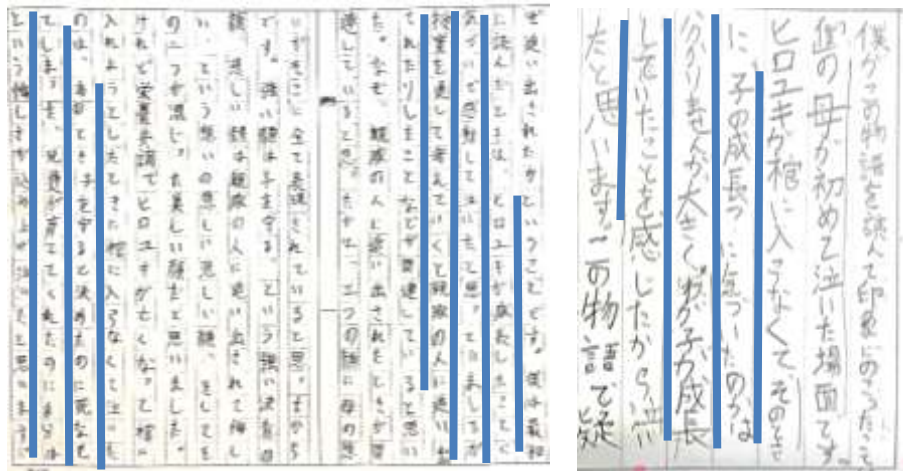
【仮説Ⅰ】について

言葉に着目することで、グループや全体で根拠をもって自分の考えを伝える生徒が増えた。特に本文から着目した言葉の一つを選ぶという段階を踏むことで、自然と本文に向き合う姿が生まれた。学習後の感想にも、本文の描写に着目した感想が多く見られた。

一方で、着目した言葉から心情を読み取るまでの流れに改善点が生まれた。母が「初めて泣いた」ときの心情を考える場面では、ヒロユキが成長したことへの喜びと捉える生徒が一定数おり、その後の「ヒロユキは幸せだった」という言葉も、そのまま読み取る生徒が見られた。言葉をそのまま受け取るのではなく、言葉の裏に込められた心情を読み取るためには、言葉一つに着目するのではなく、さらに多くの描写を見つめ直す必要があった。

【仮説Ⅱ】について

母の心情を中心に探ることで、より深く母の心情を探ろうとする姿が見られた。ある生徒は、初読の感想で、母が初めて泣いた場面を「わが子が成長していたことを感じた」と書いた。この時点では、「感動」と捉えていたが、母の心情を中心に考えていくこと



資料8 生徒の母の心情に対する考えの変化 右：初読 左：学習後

で、「あのとき子を守ると決めたのに死なせてしまった…悔しさが込み上げ泣いたと思います」と書いており、より深く母の心情を掘り下げている様子がうかがえる。また、「親戚の人に追い出されたりしたことなどが関連している」とあるように、各場面の母の言動に着目する中で、考えを深めていることもわかった (資料8)